

人間科学部

I	教育水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、1 年次学生定員 130 名に対し約 70～80 名の教員が指導に対応している。また、留学生を一定数受け入れ、教員についても女性教員比率が高まりつつあり、英国・米国・ドイツの外国人教員各 1 名を配置して国際化に対応するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、全授業科目について「授業評価アンケート」を実施して、その結果を個々の教員にフィードバックするとともに報告書として公開している。初任研修やファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人間科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、全学共通科目として TOEFL-ITP を含む英語教育、情報処理、並びに学生の現代的な問題関心を捉えた教養科目を配置している。専門教育科目で

は統計学と数学各4単位を必修化し、さらに実習・演習科目を計10単位必修にして、特色のある教育課程を編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、「インターンシップ実習」科目を充実させている。また英語での授業を部分的ながら実施し、海外への留学生を9名派遣しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人間科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義と演習、実験実習をバランスよく履修するようにしてあり、また無線LANの利用できる教室を3室整備しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学部内に図書室を設置したり、60台のパソコンを整備している。また、「魅力ある大学院教育」イニシアティブなどのセミナーに学部生の参加を求め、大学院教育と有機的連関を図っている。さらに、国際交流室で留学相談を行い、留学を積極的に進めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人間科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人間科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、標準年限内の卒業率が 76.0%である。また教員免許、社会調査士等の資格を取得する学生が多く、公務員試験合格者は 14 名であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「授業評価アンケート」により授業に対する学生の総合満足度は、卒業演習、学部演習、実験実習、学部講義のいずれの授業種別においても 5 点満点中 4 点を超え高く、教育内容の改善、学習環境の整備などにより、学生が自らの学業成果に対して満足感を持っていることが窺い知れるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人間科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人間科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進学・就職の不明確な学生も見られるが、進学率は 26.6%、就職率は 90.2%であり、専門的・技術的職業として情報処理技術者への就職が多いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、関係者からの評価に関する調査が十分なものとはいえないが、人事担当者やインターンシップ受入れ企業から卒業生や学生を評価する声が寄

せられているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間科学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人間科学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 4 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。